

【出生】令和2年度
 年間出生数： 693人
 養育医療申請児数： 21人
 低出生体重児数： 67人

【医療機関】
 *「発達障がい児」の診療等を行っている医療機関リスト(沖縄県発達障害者支援センター)

【乳幼児健康診査】 令和2年度

R2	年間実施回数	精神発達障害有所見率	保健相談要経過観察率	スクリーニング
乳児	20	0.6%	7.8%	医師判断/保健師判断/その他(県立こども医療センターこころの診療科検診検討委員会作成の間診票ツール)
1歳児	20	2.2%	16.1%	保護者の訴え/会場での観察/課題の実施
3歳児	20	1.5%	22.1%	

【未受診者対策】
 電話・はがきでの再通知/保健師による訪問勧奨/その他
 【市町村独自の取り組み】

【子育て支援サービス】
 ◆子育て支援センター：
 一般型 3ヶ所
 携帯型 1ヶ所
 気になる子のフォローの場としての利用：あり
 <その他子育て支援サービス>
 ファミリーサポートセンター

【個別発達相談】 令和2年度
 年間回数： 39件/年 延べ 66件/年
 担当職種： 心理士

【親の会等】
 *「発達障がい者に関する親の会・当事者団体等リスト」(沖縄県発達障害者支援センター)参照

【療育グループ】

グループ名	親子通園ぐんぐん(りす組)	親子通園ぐんぐん(うさぎ組)
対象児(年齢)	2歳~4歳	3歳~5歳
開催日時	2回/週	1回/週
定員		
実施場所	こども発達支援センターココイク	こども発達支援センターココイク
スタッフ体制	公認心理士1名、保育士2名、児童指導員1名	

【健診事後フォロー教室】

グループ名	わくわくキッズ
対象児(年齢)	1~4歳(厳密ではない)
開催日時	毎月第3火曜日
定員	15組
実施場所	発達支援センター ココイク
スタッフ体制	保育士2名、保健師3~4名、心理士1名、ファミサポ2~3名(兄妹児預かり)

【移行支援】
 ・申し送り書の作成(経過や支援の手立てを記入)必要な児童においては移行先に訪問し対面での引継ぎをおこなっています。

【移行支援】
 事後教室の移行先の一つとして親子通園があるが、通園スタッフと事後教室のスタッフが同じであること、また場所も同じであるため、新しい環境に慣れにくい子どもたちにとって移行のハードルが下がりがスムーズにつながる。また、通園スタッフが市内園の巡回も担っているため、移行先が保育園や認定こども園の場合、心理士・保健師で情報共有しながら、支援を継続している。

【相談支援事業所】 指定障害児相談支援事業所 12ヶ所

【療育の利用にあたり必要な手続き】
 医師の診断書を求める場合がある(障害者手帳と特別不要手当どちらも受給がない場合)
 診断書以外：特別児童扶養手当/障害者手帳(療育・精神)/その他(療育に関する意見書)

【自治体の実施する取り組みや研修】
 発達障害の特性や支援方法について理解を促すような研修を行っている(年1回発達障害ってな〜?講演会)

児童福祉法による障害児通所支援		それ以外の通所支援			
児童発達支援	医療型児童発達支援	保育所等訪問支援	親子通園	単独通園	その他
ヶ所	ヶ所	ヶ所	ヶ所	ヶ所	ヶ所

【気になる子がいた場合に紹介できる支援機関】
 あり
 主な機関名：親子通園ぐんぐん

【幼児教育・保育施設での独自の取り組み】

【療育機関と保育所・園の併行利用】
 ①公立 15人 ②認可 15人
 ③小規模認可園 2人
 ④認定こども園 32人
 ⑤認可外 人 ⑥幼稚園 人

【保育所】※()内は療育機関を併用している児の数

公立	認可	小規模認可	認可外	認定こども園	自治体独自の指定園
5ヶ所	13ヶ所	15ヶ所	12ヶ所	12ヶ所	0ヶ所

【障害児保育】
 実施園数： ヶ所
 実施人数： 人

【施設支援・巡回支援】
 行っている

【自治体の実施する取り組みや研修】
 巡回支援の中で園児の特性に沿った保育内容への助言・環境アドバイス。
 市内認可保育施設の主任・主査：主任向けワークブック

【認可外保育園の気になる子を把握する取り組み】
 園からの依頼があれば巡回支援を行っている。

【認可外保育施設の発達障害に関する研修】
 職員向けの研修会開催/研修の情報提供/その他

【気になる子がいた場合に紹介できる支援・機関】
 親子通園ぐんぐん

【障害児保育から幼稚園や小学校へ繋げる取り組み】
 4歳児の秋ごろから園と巡回支援員で連携し保護者面談、発達検査等を行っている

【保育園での気になる子を幼稚園や小学校へ繋げる取り組み】
 現場に任せている

【就園・就学】

【放課後児童クラブ】 令和2年度
 補助金交付対象児童数： 18ヶ所
 障害児受入児童数： 15ヶ所
 「障害児受入推進事業」実施児童数： 15ヶ所
 「障害児受入強化推進事業」実施児童数： 0ヶ所

保健師の意見書による個別支援(訪問、電話相談等)

【障害者相談支援事業】
●委託相談事業所 (1ヶ所)
陽だまり

●基幹相談支援センター
設置：検討中
【巡回支援専門員整備事業】
現在、実施している
保育子ども園課に席を設け、保育園やこども園と連携し、園や保護者に訪問や助言を行っている。

【発達障害児者及び家族等支援事業】
現在、実施している
ペアレントプログラム

【児童支援・保護者支援・教師支援に向けた取り組み】
・ソーシャルスキルトレーニング(SST)：
必要性を感じているが、運営面(予算、人材等)に課題がある(保健保育)
現時点では、必要性を特に感じしていない(福祉)

・ペアレント・トレーニング：
必要性を感じているが、運営面(予算、人材等)に課題がある(保健保育)
現時点では、必要性を特に感じしていない(福祉)

・ペアレントプログラム：
現在すでに実施している(委託先名：発達支援センター ココイク)(保健保育)
現在すでに実施している(福祉)

・ティーチヤーズ・トレーニング：
必要性を感じているが、運営面(予算、人材等)に課題がある(保健保育)
現時点では、必要性を特に感じしていない(福祉)

・ペアレントメンター：
必要性を感じているが、運営面(予算、人材等)に課題がある(保健保育)
現時点では、必要性を特に感じしていない(福祉)

・ピアサポーター(福祉のみ)：
現時点では、必要性を特に感じしていない

【各機関の相互連携】
発達支援に関する行政内での連携会議等

Table with 2 columns: 名称, 頻度. Rows include 参加部署等 and 検討内容.

【発達障害に関する窓口の周知方法】
センターなどのリーフレットを窓口設置

【発達障害者の相談対応】

【災害時支援に関する今後の取り組みや課題】
要保護者名簿の中に1部含まれている。

【新型コロナウイルス感染症対策に関する発達障害児の支援】
特になし

【高齢期の発達障害児支援に関する取り組みや課題】

【独自事業や取り組み】

【発達障害児者支援への取り組み状況や課題】
コロナでペアプロの開催が予定通りのスケジュールでできない。

【幼稚園入園時に発達障害の子どもの把握する取り組み】
<状況>一部把握している
<把握方法>幼児教育・保育施設からの引継ぎ(制度化している)/関係課からの情報提供(制度化している)/保護者からの事前相談

幼稚園
【特別支援を要する幼児】(令和2年度)
自閉症・情緒障害児：9人
言語障害児：2人
知的障害児：2人
【加配支援員について】(令和2年度)
配置：あり(総数：9人)
配置園数：4
支援対象園児数：11人(公立1号)
採用基準：なし
配置基準：なし
【加配支援員向け研修会について】(令和2年度)
あり
【就学相談(就学支援)について】(令和2年度)
幼児数：108人
特別支援学校：11人 通級指導：37人
特別支援学級：56人 通常級のみ：4人
工夫や課題：就学相談については、学校教育課において、随時、特別支援指導コーディネーターを派遣し実施している。また、発達心理検査後の結果返しを元に、心理士より就学についてアドバイスももっている。
【診断書の提出】：求める場合がある(特に、特別支援学校に申請をする場合)

【幼稚園で気になる子の引き継ぎについて】
現場職員に一任している

【小学校入学時に発達障害の子どもの把握する取り組み】
<状況>ほぼ把握している
<把握方法>就学時健診でスクリーニング(制度化している)/幼児教育・保育施設からの引継ぎ(制度化している)/保護者からの事前相談(制度化している)/関係課からの情報提供(制度化している)/就学相談会(制度化している)

小学校
【特別支援学級】(令和2年度)
自閉症・情緒障害学級：26
言語障害学級：5
知的障害学級：18
【通級指導教室学級総数】(令和2年度)
自閉症対象：
注意欠陥多動性障害対象：
学習障害対象：
言語障害対象：1
情緒障害対象：3
【加配支援員等について】(令和2年度)
配置：あり(総数：22人)
配置校数：9校
支援対象児童数：108人
採用基準：なし
配置基準：なし
【加配支援員向け研修会について】(令和2年度)

【小学校で気になる子の引き継ぎについて】
個別的教育支援計画を引き継ぐよう助言している/現場教員に一任している

【中学校入学時に発達障害の子どもの把握する取り組み】
<状況>ほぼ把握している
<把握方法>小学校からの引継ぎ(制度化している)/保護者からの事前相談(制度化している)

中学校
【特別支援学級】(令和2年度)
自閉症・情緒障害学級：8
言語障害学級：1
知的障害学級：9
【通級指導教室学級総数】(令和2年度)
自閉症対象：
注意欠陥多動性障害対象：
学習障害対象：
言語障害対象：3
情緒障害対象：
【加配支援員等について】(令和2年度)
配置：あり(総数：7人)
配置校数：5校
支援対象児童数：20人
採用基準：なし
配置基準：なし
【加配支援員向け研修会について】(令和2年度)

【中学校卒業後の引き継ぎについて】
●高等学校：個別的教育支援計画を引き継ぐよう助言している/現場教員に一任している
●高等学校以外の進路先(就労支援も含む)：個別的教育支援計画を引き継ぐよう助言している

高等学校・特別支援学校・就労等

【成人の発達障害者に対する支援】
R3.4月に市民向けに発達障害に関する講演会を行った。
【発達障害者の可能性が疑われる(未診断)の方への対応】
医療機関の受診を勧めるか、委託相談支援事業所へ案内している。
【就労機関に繋ぐ際の工夫や課題】
特になし

【自治体で行っている特別支援教育に関する研修会について】
研修名/対象/年間回数/形態

【市町村独自巡回支援】
行っている
利用する事業や制度：
対応している職種(人数)：園、保育園については、心理士が巡回をしてアドバイスをしている。
小中については、特別支援指導コーディネーターが派遣依頼を受けて巡回している。

支援対象となる職種：幼稚園/小学校/中学校/その他(西崎特別支援学校)
支援の対象者と内容：児童生徒支援の方法とアドバイス、学校管理者、担任、担当者へ校内体制について、支援の方法、保護者対応について行っている。

必要な手続き：学校からの希望/教職員からの希望/保護者からの希望

【教育研究所や青少年センター等市町村独自の機関との連携について】

【公立学校以外の通学児童の把握及び支援】
行っていない

【特別支援教育を進めるにあたり市町村独自で取り組んでいること】

【特別支援教育に関する説明会の対象者と時期、目的、内容】
5月、6月に特別支援コーディネーター・特別支援員、担任、担当の職員、支援を必要とする児童生徒への対応と教師間、支援間との連携について

【発達障害に関する高校受験の配慮事例】
障害に障害のある生徒の入試対応について、時間延長やヒアリングなしのテストを実施した(合格した)